

■ 2020年度 入試問題分析シート ■

九州大学

前期日程

科目

数学(理系)

総括

試験時間

150分

難易度(昨年比)

難化

昨年並

易化

分量(昨年比)

増加

昨年並

減少

〈総論〉

昨年までと比較して難易度は明らかに難化する方向に変化した。
解法を選択も容易ではない問題が多く、計算量も増加している。
基礎力はもちろんだが応用力も相当なレベルが要求される内容になったと言ってよい。

〈特記事項・トピックス〉

〔2〕は「整式」「複素数」「整数論」といった多くの分野の内容を含む融合問題で良問ではあるが、受験生は手こずったのではないかと思われる。
〔3〕も計算量が多く手間のかかる問題で差がつく問題であった。

〈合格への学習対策〉

昨年までのように標準的な問題が解ければ合格点が確保できるという考え方はもはや通用しなくなったと言ってよいだろう。
確実な基礎力を身につけるとともに、多くの解法の中から適切のものを見つけていく応用力を養っておく必要がある。また複雑な計算も確実にこなせるような計算力を身につけておくことも重要である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
〔1〕	記述	Ⅲ	微分	微分の応用問題。グラフを利用する。	標準
〔2〕	記述	A, Ⅱ	整式, 整数	(1)は整式と複素数の知識が必要。(2)は整数の問題であるが処理が複雑で難易度が高い。	難
〔3〕	記述	B	空間ベクトル	空間ベクトルの応用問題であるが、計算量が多い。特に(2)はある程度結果を予想しないといけないので難易度は高い。	やや難
〔4〕	記述	A	確率	(1)(2)は確率の標準的な問題。(3)は難しい。	標準
〔5〕	記述	Ⅲ	積分	図を丁寧に書いて空間的な関係を把握して解く必要がある。積分の計算は標準レベルである。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。